

技術名称 **SSL-CE永久アンカー工法**

技術の詳細に関するURL <http://www.snse.co.jp>

技術の特徴・概要

SSL拡孔支圧型永久アンカー工法は、アンカー定着地盤を拡孔し、拡孔部にアンカー体を拡径（アンカー体の径を大きくする）して、この拡孔部における定着地盤の支圧強度によってアンカー耐力を確保する工法で、拡径方式の違いによりパッカー方式のSSL-P型とメカニカル方式のSSL-M型とに大別されます。

各タイプの適用範囲は、SSL-P型は、定着地盤の一軸圧縮強度が5MPa以下の風化岩ならびにN値が10～50の粘土地盤を対象とし、SSL-M型は、定着部の一軸圧縮強度が3MPa～25MPa程度の軟岩～中硬岩を対象としています。

現地での施工状態や技術が活用されている図・写真、コメント等



施工前



施工後

定着地盤が、風化泥岩で周面摩擦抵抗が小さく周面摩擦型アンカーでは定着長が長くなりますが、拡孔支圧型アンカーを採用することで定着長を短くできました。

実際に技術を適用して困った点、今後の改良課題等について

パッカー方式のSSL-P300タイプは設計荷重が343kN以下であれば削孔径φ135mmで施工可能ですが、設計荷重がそれより大きい場合は削孔径φ

146mmになるためコスト縮減に向けさらなる改良が必要と考えています。

技術のPRポイント、得意とする現場条件や他工法と比較して有利な点など

地盤との周面摩擦抵抗に頼らないため、従来の周面摩擦型アンカーで懸念されるような定着地盤との進行性劣化の影響を受けにくいという利点がありま

す。また、周面摩擦抵抗が期待できない地盤でも定着長を短くできる点が優れています。